

# 月次県内経済

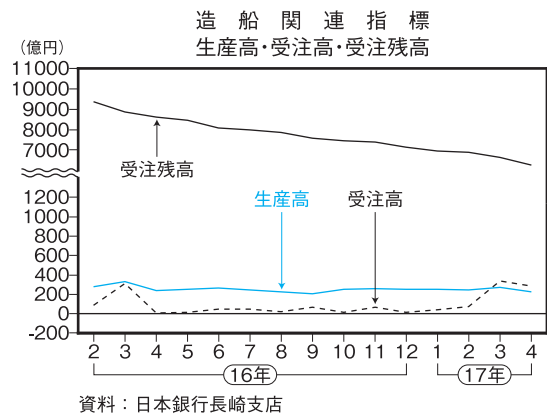
## 概況 横這い圏内ながら持ち直しの動き

〈5月〉生産面では大手・中堅造船は既往受注により概ね高めの操業を維持、重電機械も堅調、電子部品は持ち直し続く。需要面では、公共工事請負金額が増勢、新設住宅着工戸数も持ち直し。個人消費では大型小売店販売額が前年を上回り、乗用車（登録車）販売台数は増加傾向。観光面は、主要施設の入場者数、宿泊者数とも熊本地震の影響一巡から堅調推移。雇用面では有効求人倍率が1.1倍台が続き、人手不足の状況続く。企業倒産件数は引き続き低水準。6月入り後も生産・投資が底堅く、観光面は持ち直しが続く。

## 造船 大手・中堅、地場中小とも高めの操業を維持

**大手・中堅造船**では、新造需要は海運市況を反映して低調。生産面ではガス運搬船、省エネ船など高付加価値船を含めて受注残を確保していることもあり、高めの操業を維持している。

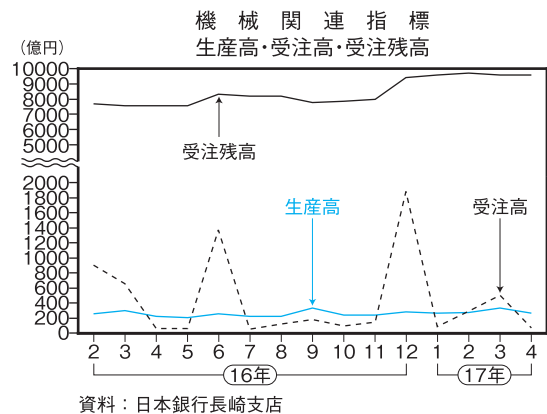
**地場中小造船**でも、既往の受注を背景に高めの操業を続けているほか、更新需要もあって貨物船や漁船、官庁船などの受注を確保している。



## 機械 重電機械は堅調、電子部品は持ち直しの動きも

**重電機械**では、原動機（タービン、ボイラー、エネルギー関連等）は新興国の需要を背景とした海外プラント関連に加え、国内でも一定の受注を確保。列車空調装置は受注持ち直しの傾向。

**電子部品**では、海外との競争など厳しい環境のなか、持ち直しの動きもみられる。

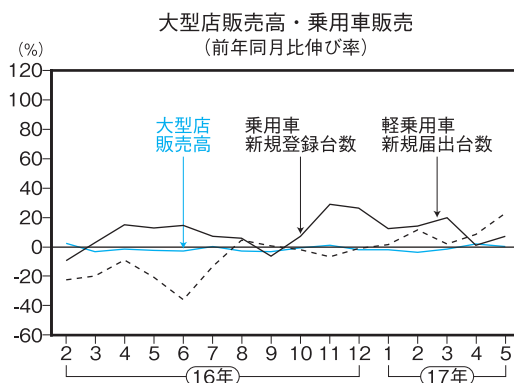


小売商況をみると、5月の県内大型小売店販売額は小幅ながら前月に続き前年を上回った。乗用車販売も登録車、軽乗用車とも前年を上回り、サービス消費面の旅行取扱高も2桁増。6月度の大型小売店等の売上げについても比較的底堅く推移。

5月の**大型小売店販売額**（百貨店・スーパー35店、九州経済産業局調べ）は87億円、前年同月比0.2%増（同一店舗比較）と小幅ながら2カ月連続のプラスとなった。品目別では、飲食料品が0.2%増、家庭用品等も1.9%増であった。一方、衣料品は主力の婦人服等が横這いも、紳士服・洋品3.0%減、身の回り品5.6%減となり、全体では1.7%減。このうち、百貨店は、衣料品等や雑貨など、スーパー・大型店等では、衣料品、化粧品、医薬品等で動きがみられた。一方、コンビニやドラッグストア等専門量販店は、堅調な売上が続いている。

乗用車販売では、5月の**新規登録台数**は1,523台、前年同月比7.3%増と8カ月連続のプラス。うち普通車は18.2%増の780台、小型車は2.2%減の743台。一方、軽自動車は1,486台、23.1%増（6月：2.8%増）となり、5カ月連続のプラス。軽を含む総販売台数でも3,009台、14.5%増と8カ月連続の増加。

サービス消費面では、5月の県内主要旅行業者の旅行取扱高が14.8%増と3カ月振りの増加。うち国内旅行が12.8%増、海外は22.7%増となった。

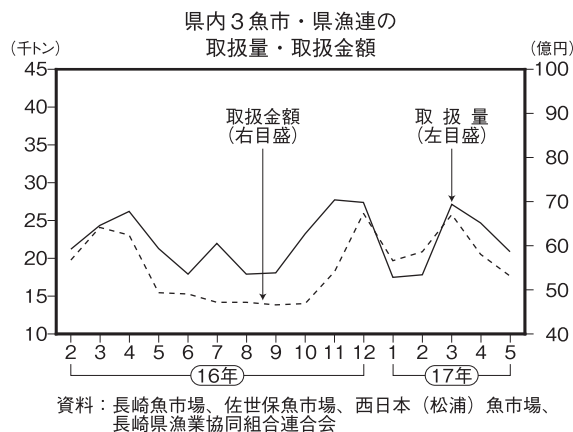


資料：九州経済産業局、日本自動車販売協会連合会  
長崎県軽自動車販売店協会

水産 取扱量が減少するも、金額は増加

5月の県内3魚市と県漁連の取扱い状況を見ると、**取扱量は2.1万トン**、前年同月比1.8%減となったものの、**取扱金額は53億円**、同7.3%増となった。

また、魚種別の水揚げ（日本遠洋旋網漁業協同組合調べ）をみると、アジは数量が前年同月比8.2%減少し、単価が73.1%上昇したことから、金額は58.8%増となった。一方、サバは数量が18.7%減少したものの、単価が2.2%上昇にとどまり、金額は16.9%減少した。

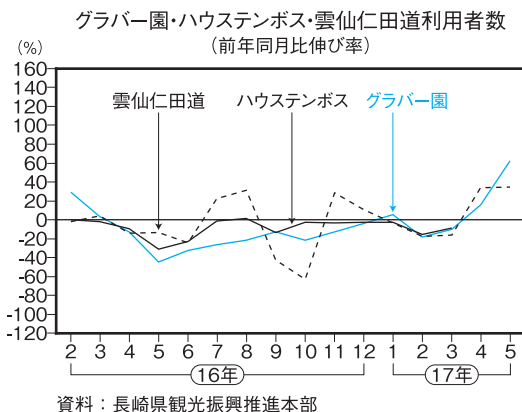


観光 主要施設の入場者数、宿泊客数とも大幅に増加

5月の県内観光をみると、熊本地震の影響一巡から、主要観光施設の入場者数、主要宿泊施設の宿泊客数ともに前年比大幅増となった。

**主要観光施設等**（13施設）の入場者は834千人、前年同月比5割増（51.4%増）となり、震災前の15年同月比でも4.2%増と、回復の兆しがうかがえる。地区別にみると、九州初の特別企画展「ジブリの大博覧会」が大人気の長崎歴史文化博物館が2.9倍、グラバー園（62.6%増）と長崎原爆資料館（68.8%増）も大幅に増加した。また、映画「沈黙－サイレンス－」効果が続く遠藤周作文学館も3.3倍と引き続き好調。また、熊本県に近い島原半島では、島原城（37.5%増）と雲仙岳災害記念館（112.2%増）、雲仙仁田道（34.6%増）のいずれも増加した。一方、県北地区は「バラ祭」や世界花火師競技会海外予選などを実施したハウステンボスが引き続き増加、九十九島パールシーリゾート（6.9%増）と平戸城（32.7%増）も増加した。また、離島地区では入館者が75万人を突破した一支国博物館（14.7%増）が増加に転じ、堂崎天主堂（61.7%増）と万松院（4.6%増）も増加した。

**県内主要宿泊施設**（42社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数は、前年同月比38.5%増と4割近く増加した。地区別にみると県南地区が41.7%増、県北地区も35.0%増となった。また、雲仙・小浜の各観光協会の調べによると、雲仙地区の宿泊客数は22千人、前年同月比28.3%増となるも、15年比では39.1%減となった。一方、小浜地区は13千人、同38.1%増、15年比でも5.8%増となり、5カ月連続増となった。



## 公共工事

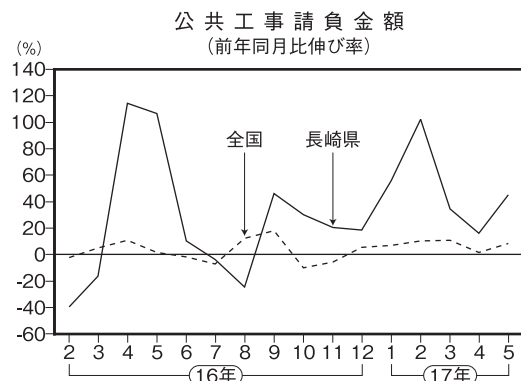
### 請負金額、増勢続く

5月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は162件、前年同月比5カ月連続の増加、**請負金額**は206億円、同45.0%増となり、9カ月連続で前年を上回った。

主要発注者別の**請負金額**では、「国」（6億円、33.8%減）が減少したものの、「独立行政法人」（141億円、45.1%増）、「県」（30億円、3.3倍増）、「市・町」（30億円、25.7%増）いずれも前年を上回った。

また、地区別の**請負金額**をみると、前年を上回ったのは、諫早地区（129億円、1.8倍増）、長崎地区（45億円、1.6倍増）など6地区。一方、県北地区（11億円、38.2%減）など4地区は前年を下回った。

なお、同月の大型工事は、（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構発注の九州新幹線（西九州）新大村高架橋等（9件、126億円）、長崎県庁舎行政棟電気工事（14億円）など。



資料：西日本建設業保証

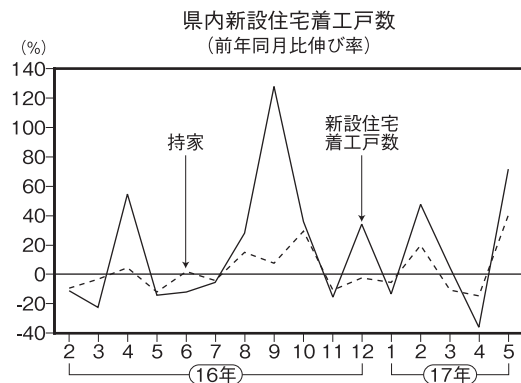
## 住宅建設

### 持ち直しの動き

5月の**新設住宅着工戸数**は718戸、前年同月比71.4%増と2カ月振りのプラス。

利用区分別にみると、持家（290戸、40.1%増）、貸家（327戸、103.1%増）、給与（0戸、全減）、分譲（101戸＜うちマンション64戸＞、4倍増）と、給与以外の全ての区分で前年実績を上回った。

主な市郡別（県建築課調べ）では、佐世保市（237戸、66.9%増）、長崎市（216戸、32.5%増）、大村市（67戸、86.1%増）、諫早市（64戸、3.8倍増）などほとんどの市郡で前年実績を上回り、下回ったのは壱岐市（3戸、25.0%減）のみ。



資料：国土交通省

雇用 緩やかな改善傾向続く

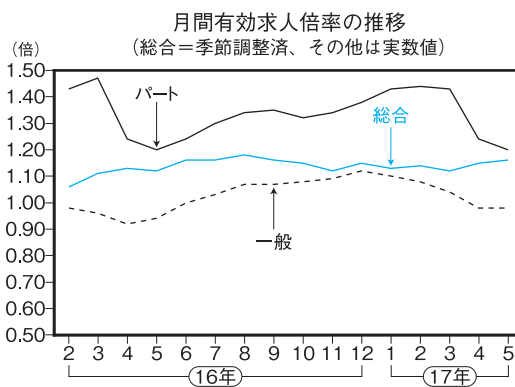
5月の県内の**有効求人倍率**（季節調整済）は前月を0.01ポイント上回る1.16倍。また、全国の有効求人倍率は前月を0.01ポイント上回る1.49倍となった。

**新規求人数**は10.0千人、前年同月比3.8%増となり、7カ月連続の増加となった。形態別では、一般求人が7.6%増と2カ月振りの増加、パート求人は1.2%減となり3カ月振りの減少。主な業種別にみると、サービス業（30.1%増）、建設業（12.8%増）などが2桁増、医療、福祉（8.7%増）、製造業（7.7%増）なども前年を上回り、運輸業（9.9%減）、飲食店、宿泊業（8.2%減）、卸売・小売業（2.9%減）などは前年を下回った。一方、**新規求職者数**は6.6千人、前年同月比1.1%増と4カ月振りの増加。形態別では、一般求職者が0.3減、パート求職者が3.5%増となった。

また、**有効求人数**は27.7千人、前年同月比2.8%増と29カ月連続のプラス、**有効求職者数**は26.1千人、前年同月比0.6%減と4カ月連続の減少。

**就職件数**については、2.8千件、前年同月比0.2%増と2カ月連続の増加。また、**雇用保険受給者実人員**は5.2千人、前年同月比5.4%増となり52カ月振りに増加した。

県内の雇用データをみると、緩やかな改善傾向が続いている。



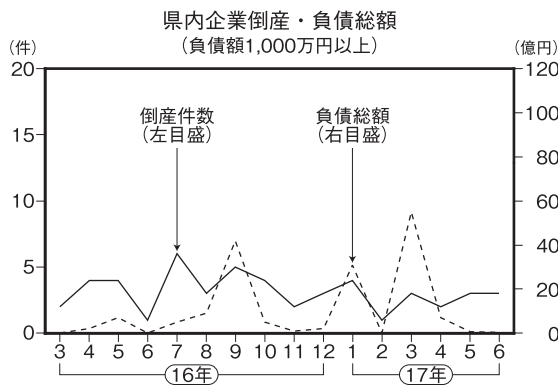
資料：長崎労働局

企業倒産 件数・金額とも低水準

6月の県内の**企業倒産件数**（東京商工リサーチ調べ）は、前年同月比2件増の3件となったが、71年の集計開始以来、2番目に少ない件数となった。

一方、**負債総額**は前年同月比36.7%増の0.4億円と、71年の集計開始以来、単月の負債総額では2番目に少ない金額となった。

倒産件数を業種別にみると、農林水産業・小売業・サービス業が各1件で、倒産原因は全て「販売不振」。



資料：東京商工リサーチ